



発行：公益財団法人国際労務管理財団（I.P.M.） <http://www.ipm.or.jp/>
東京本部 〒160-0022 東京都新宿区新宿1-26-6 新宿加藤ビルディング7F
TEL：03-3354-4841(代) FAX：03-3354-4847

目次

1	I.P.M.日本語作文コンクール 結果のご報告
2	
3	受け入れ企業の取り組み
	海外とのつながり
4	担当職員から
	編集後記

I.P.M. 日本語作文コンクール結果のご報告

【最優秀賞】

株式会社エヌチキン NGUYEN THI NGOCさん

【優秀賞】

株式会社エヌチキン NGUYEN THI LAN THUさん

【努力賞】

南薩食鳥株式会社 TRAN THI PHUONGさん

受賞された皆様、おめでとうございます。
ご応募いただいた方々、ありがとうございました。

受賞者の作品を紹介します。
※文章は原文のまま掲載しております。

【最優秀賞】

私の日本語レッスン

株式会社エヌチキン NGUYEN THI NGOCさん

私が日本に来た目的は、家族の生活のため、そして、自分自身の成長のためです。私の会社は食品会社で、日本に来てもう1年が経ちました。楽しかった事もあるし、困った事もありましたが、色々な経験が私を成長させてくれたと思っています。

そんな日本の生活の中で、私を一番成長させてくれたのが日本語でした。私にとって日本語は優しいイメージがあり、それを使う日本人も優しい雰囲気を持っていると思います。日本に来て、初めの一カ月は日本語の勉強をしました。そこで、日本人の先生が色々な、面白い意味の日本語を教えてくださいました。まず、先生が教えてくれた言葉で印象に残っているのが、「一期一会」です。先生は私に、「一期一会」は「一生に一度だけの機会」という意味だということ、だから、良い出会いを大切にしなければならないと教えてくださいました。今年のお正月、私は先生の教えてくれた「一期一会」を思い出す出来事がありました。お正月に妹が住んでいる福岡へ遊びに行きました。福岡には友達がいませんでしたから、行く時は少し不安でした。でも、行ってみると、たくさんの新しい友達が出来て、別の田舎から来た人たちにも出会って、色々、経験することができました。本当に福岡にいる時間は楽しく、私は先生の教えてくれた、「一期一会」を思い出しました。この言葉は私にとって、日本語での最初の貴重な教訓になったのです。

他にも、先生が教えてくれた言葉で、心に深く残っている物があります。「失敗は成功の元」という言葉です。人生には、苦しい事や、困難な事が必ず起きます。でも、それに挑戦して、立ち向かって行くことが、成功につながっていく、人間を成長させてくれると、先生は教えてくださいました。この言葉を私は今でも心に置いて、毎日仕事を、生活を、頑張っています。

今でも、毎日使う日本語、聴く日本語は、私を成長させてくれています。2年後、帰国した時に、家族に成長した私を見せてあげたいです。そして、私を成長させてくれた日本語をたくさんの人に教えてあげたいです。最後に、最近私が聴いて、印象に残った言葉をぜひ紹介したいです。それは「ありがたい」という言葉です。漢字で書くと「有難い」となります。これは、「無い」という言葉を、「有る」に変えると出来る言葉です。「有難い」ことは、とても貴重なこと、滅多に無いことだという意味です。感謝の言葉を、このように考えることができる日本人は本当に、すばらしいと思います。私を成長させてくれた日本語に「有り難う」と言いたいです。

【優秀賞】

母からの手紙



株式会社エヌチキン NGUYEN THI LAN THUさん

誰にでも一番愛している人がいます。私の一番愛している人は母です。何時も私を助けてくれて、いろいろなことを私に教えてくれます。母は何時も私の決断を支持してくれます。そして、私の側にいてくれます。私が失敗した時は、「七転び八起きですよ。」と、励ましてくれます。そんな大好きな母のために、私は日本に来ました。

私は大学で勉強したいと思っていました。でも、両親が借りたお金を、私が代わりに払ってあげたいと思うようになり、日本に行く事を決意しました。日本に来てからは、母がとても恋しかったです。でも、私は母を心配させたくなかったので、電話をする時に泣いたり、しませんでした。私は日本の生活に早く慣れるように、日本の習慣や言葉を早く覚えられるように、毎日一生懸命過ごしました。そんな生活の中で起こる、嬉しいことや、悲しい事を、一番伝えたい母が私の側にいてくれないことが、私にとっては一番辛かったです。仕事で帰りが遅い日が続く、心配した母が私の友人に電話をかけたこともありました。私は時々、母が恋しくて、友人たちに隠れて布団の中で泣きました。早くベトナムに帰って、母を抱いて、「愛している。」と言いたい。でも、それはできません。それに、そんな言葉、恥ずかしくて一度も母に伝えた事はありませんでした。

文化や習慣の違いで、生活にも、仕事にも疲れていたある日、母から荷物が届きました。荷物の中には、たくさんのベトナムの食べ物と手紙が入っていました。手紙には、「日本とベトナムの料理は同じじゃないけど、ちゃんと食べていますか。心配だったので、ベトナムの食材を送ります。頑張ってるね。」と、書いてありました。そして、手紙の最後にはベトナム料理の作り方で書かれていました。私は疲れがふき飛んで、暖かい気持ちになりました。日本で、もう少し頑張ろうと思えました。その手紙は今でも辛い時、私を支え、暖かい気持ちにしてくれます。

日本に来て、もう一年半になります。私には、やりたいことが一つできました。それは、日本で生活したこと、日本人から学んだこと、仕事のこと、楽しかったこと、辛かったこと、それを全部、母に話して聞かせてあげることです。そのために私は残り一年半、一生懸命仕事をして、ベトナムに帰ります。今度、恥ずかしがらずに「お母さんありがとう。私を産んでくれてありがとう。私はお母さんを一番愛しているよ。」と手紙を書こうと思います。私の手紙が母の心を暖かくできたらいいなと思っています。



【努力賞】

明るい明日

南薩食鳥株式会社 TRAN THI PHUONGさん

日本の文化、生活習慣に触れ、日本語を勉強するために日本に来ました。日本の自然とてもうつくしく、日本人も親切だし、日本の文化も面白いです。

今まで日本へ来た最初の日がまだ忘れられません。私はいい人に会いました。社長と管理者と先輩はいい人です。仕事の時、みんなはいろいろ手伝ってくれました。病気の時、社長は忙しくても病院に連れて行きます。休みの日ときどききれいな所へ連れてくれます。私の近所もみんなは親切です。毎年近のお祭に参加しました。皆のおかげで、生活は楽しくなりました。

しかし、ベトナム人でも私ほど幸運ではありません。最近、日本へ来るベトナム人の数が増えています。とともに問題も増えます。日本のニュースでベトナム犯罪者の割合が増えていると言います。ニュースを見たら哀しくてはずかしいです。給料が安いとか生活には多くの困難があるとかきびしい社長がいたり、あるいは悪い人にだまされたりして働いている会社を脱走しました。先月、ニュースでベトナムの実習生が逃亡しました。仕事が終わったら帰り道で警察に会いました。その人はこわいから川にとびおりました。そしてその人は溺れました。或は他の場合、ベトナムの実習生が足場が倒れてけがをしましたが保険の加入がありませんからいっぱい払いました。その他の場合は無職になってスーパーの物を盗みました。

日本人にはベトナムの印象が悪くなります。将来、日本人はたぶんベトナム人がいりません。今ベトナムで日本語を勉強している人が多いです。皆日本に留学したいです。だからベトナムの印象が悪くなることを心配します。

逃亡しなで実現可能な計画を立てればいいじゃないですか？毎日一生懸命働いてください。仕事はたへんでも笑顔で挨拶したり日本語も勉強したり日本人と話してください。生活はだんだん楽しくなります。仕事の時間問題があたり黙っていないではっきり言ってください。恥ずかしがらずに理解できるまで、何回でも繰り返し確認しましょう。

私はそうすることで仕事が楽くなると思います。皆さんが幸福になれるように一緒に頑張っていきましょう！

明日は明るくなります。

受入れ企業の取り組み 株式会社亀井製作所様の社員旅行

平成29年11月1日から技能実習法が施行されました。技能実習法の主たる目的として、技能実習生の保護と技能等の海外移転による国際貢献の推進があります。特に技能等の海外移転の推進を図るために、技能実習制度活用の拡大が行われたことについて着目してみます。

技能実習制度活用の拡大において、新しい技能実習3号（4,5年目）の設立、人数枠の緩和などが、可能になりました。これらを活用していくためには、受入れ企業が、優良な実習実施者であることが認められなければならない。

優良な実習実施者であると認められる要件として、重要になるのは、技能等の修得等に係る実績であり、それが優良要件加点の大きな比重を占めております。具体的には、1年目や、3年目の技能検定試験等に、しっかりと合格させているかが問われます。他にも技能実習を行わせる体制、待遇、法令違反等、相談・支援体制や地域社会との共生なども、要件として加味されております。

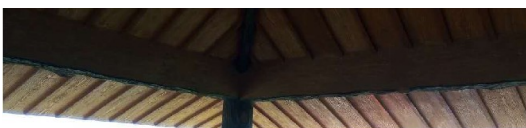
現在、I.P.M.の受入れ企業でも、優良であることが認められ、すでに技能実習3号（4,5年目）の技能実習生が実習活動を行っております。いずれの企業も、優良と認められた要件の中で、「日本文化を学ぶ機会をアレンジしていること」が認められております。

技能実習生に日本文化を学ばせることは、優良要件の加点だけではなく、日本の素晴らしい文化を他国に普及させることができたり、技能実習生にとっては、得がたい貴重な思い出になったり、仕事のリフレッシュができたり、会社にとっては、社員間の交流によって、親睦を深め、より広く深い社内の人間関係の構築ができるなど、さまざまな効果が現れております。

実際に、会員企業の皆さまで「日本文化を学ぶ機会をアレンジしていること」を行っている事例を、紹介いたします。

1998年より受入れを開始した株式会社亀井製作所は、すでに優良な実習実施者として認められおり、今年から技能実習3号の技能実習生を受け入れる予定になっております。同社では、2年に1回、社員旅行を実施しております。目的は文化を学ぶこと、社員間の親睦、社員のリフレッシュ等です。

昨年は、沖縄県の石垣島に行き、実習生を含む社員全員で、沖縄の民族舞踊を学んだり、現地の食文化を体験したり等、様々なイベントを実施したそうです。普段は内気でおとなしい技能実習生も、日本人従業員と楽しんでいたりと、技能実習生も貴重な思い出になったと喜んでいる様子でした。旅行中には写真をたくさん撮り、家族や友人に自慢できたと実習生が報告してくれました。



下 石垣空港で記念撮影



上 伝統舞踊をみんなで学びました



海外とのつながり

ベトナムフェスティバル

日本とベトナムの外国関係樹立45周年記念事業として「ベトナムフェスティバル2018」が東京・代々木公園で開催されました。I. P. M. もJIFA（日本国際親善協会）やPMネットワークとともにブースを出展し、たくさんの技能実習生の皆さんにもブースを訪問いただき、プ交流を深めることができました。皆様にご協力いただきましたこと、厚くお礼申し上げます。

日越人材育成交流会

ハティンで 10月に開催予定

I. P. M. では、より充実した日本での技能実習及び留学の実現を目指し、日越人材育成交流会（仮称）を開催予定です。ハティン省の高校生や学校関係者を対象に、留学や技能実習の適正な実施を図るべく、教育訓練局と共催で人材育成交流会を開催する予定です。是非、開催にご協力、ご理解をお願い致します。



（左）2017年ハノイでの開催の様子

担当職員から

監理団体の職員として、技能実習が適切に行われているか「監理」する業務は言うまでもなく主なことであり、時に企業側に面倒に思われるようなことも指摘し続けなければなりません。しかしながら、私達職員は「役人」ではありませんので、「役人ではない」立場として、企業と実習生の双方にとってベストな実習が行われるよう、言わば黒子役に徹して動く必要があると日々感じています。当たり前のことですが、双方が笑顔でいられることは、それぞれが実習に対し真摯に取り組んでいて、その努力が実を結んだ結果になります。その認識のもとアプローチをするのが監理団体職員の姿であると思いますが、やはりそれでも双方の笑顔が見られた時には、自然とやりがいを感じてしまうのも事実です。

福岡事務所が担当している企業の多くの現場では、このような「笑顔」を垣間見ることができま



浄水装置設置校決定

毎年1基の目標にしておりますベトナムへの浄水装置の寄贈について、現地調査を踏まえ、検討の結果、今年は、SUNTHO幼小中学校に決定いたしました。設置工事は10月完了の予定です。学校の先生方は「装置はしっかりメンテナンスします。」と約束をしました。

（右）幼少中学校の代表らとの打合せ



ハティン省人民政府にて会議実施

7月4日、I. P. M. 理事長 池田節子らがハティン省人民政府を訪問し、副委員長、教育訓練局及び外務局の代表者らと今後のI. P. M. の活動予定について打合せ会議を開催いたしました。副委員長より今後のI. P. M. の活動をより円滑に実施するため、教育訓練局及び外務局に権限を与え、協力するとの申出がございました。今後、より一層ベトナムとの交流が深まることが期待されます。

す。鹿児島県南九州市にある株式会社エヌチキン様では、毎年夏に開催される地域の「ねふた祭り」に、技能実習生を参加させて頂いています。実習生達が企業という組織の一員、また地域の一員として文化活動への参加をさせるということは、彼らの帰属意識や集団での絆を高めることとなり、結果的に、それが実習を行う上で双方にプラスに働いているようです。また、お互いのことをよく知り、心の距離が近くなるような職場作りを行うことで、国籍の違いを意識するよりも、一人一人が異なる個性を持つ生身の人間であるという認識が職場全体に広まっていて感じます。このような企業の自然な取り組みが、都会の生活で見られるものよりも、遥かにグローバルな意識のもと国際交流が自然と行われているのではと感じることが多い今日この頃です。

（福岡事務所・波多野寛治）



編集後記—実習生が個人で地元の行事や企業のイベントに参加する時は、「日本語通じるかな？」と不安に思うものです。是非、実習生らに一声かけ、最初のハードルを取り除いてあげて、楽しい思い出作りにご協力願います。（留）